

2015年7月9日

ウェザーニューズ、2015年夏の「ゲリラ雷雨傾向」発表 エルニーニョ現象でゲリラ雷雨増加、全国の発生回数は昨年の4割増 ～ゲリラ雷雨のピークは8月、関東甲信では昨年の3倍になる見込み～

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、突発的かつ局地的に大雨や雷をもたらす“ゲリラ雷雨”に対し、事前対策への意識を高め、被害軽減に繋げるため、7～9月の「ゲリラ雷雨傾向」を発表しました。今年はエルニーニョ現象の影響で太平洋高気圧の勢力が弱く、湿った空気や上空の寒気の影響を受けやすくなり、全国のゲリラ雷雨発生回数は昨年の1.4倍に増加する予想です。特に関東～近畿は全国の中でも多く、最も予想発生回数が多い関東甲信では昨年の約2倍、雷雨のピークとなる8月には昨年の約3倍のゲリラ雷雨が発生する恐れがあり、道路冠水や河川の急激な増水に十分注意が必要です。ゲリラ雷雨シーズンは、一人ひとりが災害に対する意識を高め、身の回りの危険な箇所を確認することが被害軽減につながります。最新情報はスマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」よりご覧いただけます。

「ゲリラ雷雨傾向」はこちら

スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」をダウンロード後、「おしらせ」にアクセス

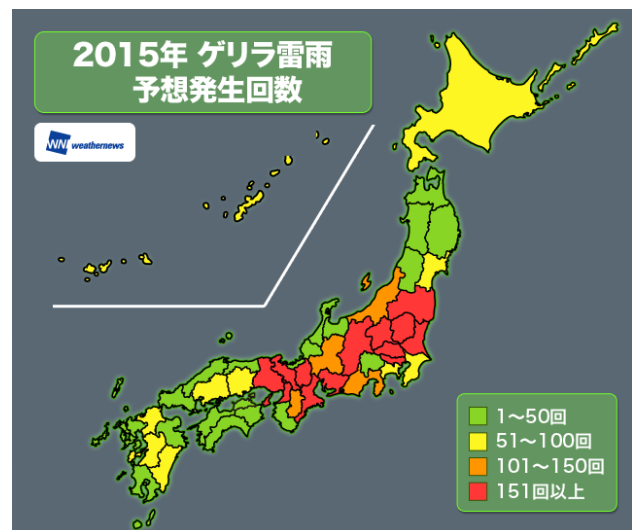
スマホ向けwebサイト「ウェザーニューズ」から「ゲリラ雷雨傾向」にアクセス
<http://weathernews.jp/s/guerrilla2015/>

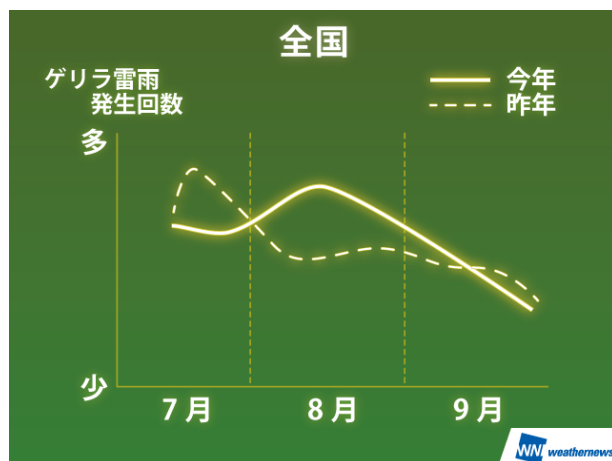
◆ “ゲリラ雷雨”の発生傾向

“ゲリラ雷雨”は急激に発達する積乱雲をもたらす局地的な激しい雷雨で、太平洋高気圧が弱まり、湿った空気や上空の寒気が流れ込む時に発生しやすくなります。

今夏はエルニーニョ現象の影響で太平洋高気圧の勢力が弱い予想で、全国のゲリラ雷雨発生回数は昨年の約1.4倍に増加する見込みです。特に関東～近畿を中心に大気の状態が不安定となり、ゲリラ雷雨の発生回数が多くなりそうです。予想発生回数が最も多いエリアは関東甲信で、7～9月の間に1,500回以上、雷雨のピークとなる8月には昨年同月の約3倍のゲリラ雷雨が発生する恐れがあります。

7月下旬は太平洋高気圧が一時的に強まってゲリラ雷雨の発生が少なくなる時期があるものの、8月は高気圧の勢力が弱まり、全国的にゲリラ雷雨のピークとなる予想です。9月になると台風や秋雨前線の影響を受ける日が次第に増え、ゲリラ雷雨の発生は減少しますが、雷を伴う短時間強雨や大雨には注意が必要です。





◆エリア別の“ゲリラ雷雨”発生傾向

エリア	2015年ゲリラ雷雨発生回数 (7/15~9/30)		2014年ゲリラ雷雨発生回数 (7/15~9/30)
	予想回数	2014年比予想	
北海道	52 回程度	0.6 倍	86 回程度
東北	393 回程度	0.9 倍	437 回程度
関東甲信	1,512 回程度	1.9 倍	790 回程度
東海	556 回程度	1.1 倍	513 回程度
北陸	211 回程度	1.4 倍	156 回程度
近畿	1,130 回程度	1.9 倍	591 回程度
中国	213 回程度	1.1 倍	200 回程度
四国	83 回程度	0.8 倍	107 回程度
九州	358 回程度	1.2 倍	289 回程度
沖縄	56 回程度	1.1 倍	50 回程度

◆都道府県別の“ゲリラ雷雨”発生傾向

地方	都道府県	2015年の 予想 発生回数 (7/15 ~9/30)	2014年の 発生回数 (7/15 ~9/30)	昨年比 (7/15 ~9/30)	地方	都道府県	2015年の 予想 発生回数 (7/15 ~9/30)	2014年の 発生回数 (7/15 ~9/30)	昨年比 (7/15 ~9/30)
北海道	北海道	52 回程度	86 回程度	0.6 倍	近畿	滋賀県	263 回程度	138 回程度	1.9 倍
東北	青森県	34 回程度	43 回程度	0.8 倍		京都府	203 回程度	107 回程度	1.9 倍
	秋田県	24 回程度	23 回程度	1.0 倍		大阪府	283 回程度	145 回程度	2.0 倍
	岩手県	28 回程度	36 回程度	0.8 倍		兵庫県	217 回程度	115 回程度	1.9 倍
	宮城県	93 回程度	112 回程度	0.8 倍		奈良県	133 回程度	70 回程度	1.9 倍
	山形県	41 回程度	48 回程度	0.9 倍		和歌山県	31 回程度	16 回程度	1.9 倍
	福島県	173 回程度	175 回程度	1.0 倍		中国	岡山県	75 回程度	73 回程度
関東甲信	茨城県	244 回程度	120 回程度	2.0 倍	広島県		76 回程度	65 回程度	1.2 倍
	栃木県	268 回程度	141 回程度	1.9 倍	鳥取県		22 回程度	24 回程度	0.9 倍
	群馬県	229 回程度	109 回程度	2.1 倍	島根県		10 回程度	13 回程度	0.8 倍
	埼玉県	258 回程度	131 回程度	2.0 倍	山口県		30 回程度	25 回程度	1.2 倍

	東京都	155 回程度	96 回程度	1.6 倍	四国	徳島県	28 回程度	39 回程度	0.7 倍
	千葉県	76 回程度	45 回程度	1.7 倍		香川県	23 回程度	29 回程度	0.8 倍
	神奈川県	63 回程度	37 回程度	1.7 倍		愛媛県	21 回程度	25 回程度	0.8 倍
	山梨県	30 回程度	14 回程度	2.2 倍		高知県	11 回程度	14 回程度	0.8 倍
	長野県	189 回程度	97 回程度	2.0 倍		福岡県	73 回程度	60 回程度	1.2 倍
北陸	新潟県	140 回程度	108 回程度	1.3 倍	九州	佐賀県	35 回程度	29 回程度	1.2 倍
	富山県	49 回程度	32 回程度	1.5 倍		長崎県	24 回程度	20 回程度	1.2 倍
	石川県	11 回程度	8 回程度	1.3 倍		熊本県	71 回程度	58 回程度	1.2 倍
	福井県	11 回程度	8 回程度	1.4 倍		大分県	42 回程度	33 回程度	1.3 倍
東海	静岡県	107 回程度	95 回程度	1.1 倍		鹿児島県	50 回程度	40 回程度	1.2 倍
	愛知県	176 回程度	167 回程度	1.1 倍		宮崎県	63 回程度	49 回程度	1.3 倍
	三重県	153 回程度	138 回程度	1.1 倍		沖縄	沖縄県	56 回程度	50 回程度
	岐阜県	120 回程度	113 回程度	1.1 倍	全国	4,564 回程度	3,219 回程度	1.4 倍	

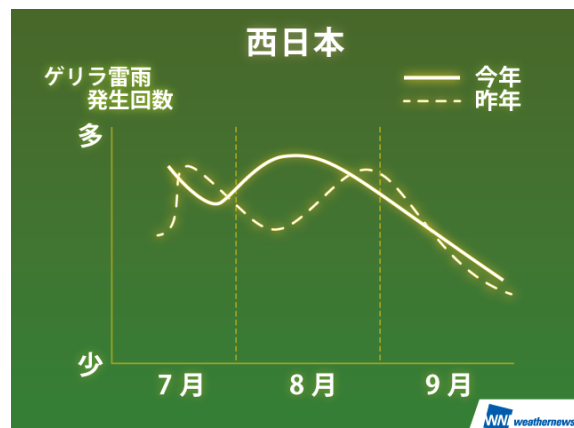
◆エリア別の傾向

<p style="text-align: center;">北日本</p> <p>北日本のゲリラ雷雨発生回数は昨年並かやや少なくなる見込みで、8月中旬がゲリラ雷雨のピークとなりそうです。</p> <p>8月に入っても低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、天気急変を伴うゲリラ雷雨の発生はそれほど多くない予想です。また、9月後半は突発的なゲリラ雷雨ではありませんが、秋雨前線や台風接近の影響で大雨になる日があり、雷を伴う強い雨に注意が必要です。</p>	<p style="text-align: center;">北日本</p> <p>ゲリラ雷雨発生回数</p> <p>— 今年 - - - 昨年</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>7月 8月 9月</p> <p style="text-align: right;">NNN weathernews</p>
<p style="text-align: center;">東日本</p> <p>東日本のゲリラ雷雨発生回数は昨年より多くなる見込みで、8月がゲリラ雷雨のピークとなりそうです。</p> <p>7月下旬に梅雨明けした後は一時的に晴れる日が多くなりますが、今夏は太平洋高気圧の張り出しが弱く、特に8月は湿った空気や上空の寒気の影響でゲリラ雷雨が増加します。ゲリラ雷雨の発生回数が全国で一番多い予想の関東甲信では、8月のゲリラ雷雨発生回数が昨年の約3倍になる恐れがあり、道路冠水や河川の急激な増水に十分注意が必要です。日頃から身の回りの危険な箇所を確認しておいてください。</p> <p>9月になると秋雨前線の影響を受け、ゲリラ雷雨は次第に減少しますが、台風接近で大雨になる恐れがあります。ゲリラ雷雨シーズンの後も、雨による災害に注意してください。</p>	<p style="text-align: center;">東日本</p> <p>ゲリラ雷雨発生回数</p> <p>— 今年 - - - 昨年</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>7月 8月 9月</p> <p style="text-align: right;">NNN weathernews</p>

西日本

西日本のゲリラ雷雨発生回数は昨年並か多くなる見込みで、8月がゲリラ雷雨のピークとなる予想です。特に上空の寒気の影響を受けやすい近畿では、7～9月のゲリラ雷雨発生回数が昨年の約2倍となる見込みです。

7月下旬に梅雨明けした後は、一時的に太平洋高気圧に覆われ、ゲリラ雷雨の発生が抑えられる時期がありますが、8月は太平洋高気圧の勢力が弱まり、湿った空気や上空の寒気の影響を受けるため、ゲリラ雷雨が発生しやすくなります。9月には秋雨前線の影響を受けて次第にゲリラ雷雨の回数は減少しますが、台風接近で大雨になる恐れがあります。ゲリラ雷雨シーズンの後も、雨による災害に注意してください。



◆ “ゲリラ雷雨” 発生回数の求め方

“ゲリラ雷雨”をもたらす雷雲は、予測可能な前線による雨とは別で、“突発的”かつ“局地的”に発達し、事前に予測することが難しいのが特徴です。また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約1,300箇所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。当社では、全国850万人以上の利用者からなる降雨報告(※)において、“ザーザー”以上の強い雨(5段階中の2番目以上に強い雨)が報告され、かつ、過去1時間に雨の報告が2割以下の場合を“ゲリラ雷雨”とし、10kmメッシュごとにカウントしています(ただし、前線等の影響による雷雨を除く)。なお、昨年の発生回数は7月15日～9月30日の期間で算出しています。

※) 降雨報告はスマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」を通し、“ポツポツ”、“パラパラ”、“サー”、“ザーザー”、“ゴォー”の5段階で報告されます。

◆ “ゲリラ雷雨” 傾向について

当社では、長期気象予測サービスの実用化に向けて日々取り組んでいますが、現在の気象予測の技術水準では予測精度の誤差が大きくなる場合があります。この度の“ゲリラ雷雨”の傾向発表は、気象機関や長期予報の有識者の複数の見通しをもとに、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報は、発表日における最新見解で、7月15日～9月30日までの期間を対象としています。